

令和6年度 浜松市立双葉小学校 学校評価報告書

1 自己評価

自己評価結果及び考察
別紙のとおり

2 学校関係者評価

2月6日に行われた学校運営協議会において、自己評価、考察及び改善方策について委員に報告。
委員から以下のような意見があった。

- ・キッズチャレンジビジネスは、とても完成度が高かった。本番当日に買い物に来た保護者の多さから、キッズチャレンジビジネスに対する期待が感じられた。
- ・ふたばっ子発表会は、お遊戯会ではないということが伝わり、次年度に伝える意図も見られ、必要な力が付いていくと感じた。
- ・ふたばっ子発表会は感動した。終わった後「ありがとうございました。」と言えたことは、感謝の心や他の人を敬う心が育っているということで、心温まる思いがした。
- ・他人を敬う心、思いやる心が育ってきたことが、落ち着いた学校生活につながっているのではないと思う。
- ・授業や行事で参観してきた思ったことは、教育活動が充実し、子供たちが学校生活を楽しんでいた。それが重大ないじめ事案が起らなかったことにつながっていると思う。
- ・教員の評価が高いのは良かったが、児童はアンケートの意味をどのくらい理解できているか疑問に思う。
- ・「自分の伝えたいことを表現したり、相手の伝えたいことを理解したりしている。」の結果が低いということは、他の結果から相対的に見て、個の力は伸びてきているが、相手に関わってくる場面になると、個の力が発揮しきれていないのではないだろうか。
- ・人との関わり方を小学校で学び、自然に身に付くような教育へ向かえたらと良いと思う。
- ・児童と教員の評価が高く、保護者との差があると感じた。子供が自分の意思を保護者に伝えるということが欠けていて、保護者の評価が低いのではないか。相手に対して伝える力が養えると良い。
- ・保護者も参観会や発表会等のみでは評価が難しいと思った。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ・来年度も「思いやりがいっぱい」を意識した活動を展開していく。まずは子供たちが主体的な学びをし、自分を見つめ、自信をもてるように、「やりたいことを見つけ、挑戦する」場をさらに教科学習にも取り入れるとともに、キャリア教育の視点でも子供を見取っていく。そして、思いやりのある言動による他者との交流を土台とし、安心・安全で落ち着いた学校生活を送ることができるよう、仲間のがんばりを励まし、お互いに努力を認め合えるように、教育活動の様々な場面で支えていく。そうすることが、いじめの起こりにくい温かな学校風土の醸成につながると考える。
- ・自分の伝えたいことを表現したり、相手の伝えたいことを理解したりできるよう、まずは「聴く」ことの大切さを子供たちが理解し、実践につなげられる指導・支援として以下の3点を心掛けていく。
 - ①相手を大切にしているという思いが伝わる具体的な聴き方を全職員で共有し、年度当初、子供たちと確認後、日々の活動の中で取り組む。
 - ②家庭でも同様な聴き方で子供たちの声や思いを受け止めていただけるよう、学校だよりやブログ、懇談会等で思いやりのある聴き方について伝える機会を設ける。
 - ③朝の会や帰りの会で、相手の話を聞き、質問する活動を取り入れる。相手が真剣に聞き、知ってもらいたいことを質問されることで、より自分の思いを詳しく伝えたいという思いが育つのではないかと考える。
- ・今年度同様、ブログ等による発信を継続し、保護者や地域に教育活動の結果や成果だけでなく、意図や目的とともに子供たちの学びをアピールしていく。また、CSが広く深く浸透していくように、CSだよりを作ったり、ブログ等で発信したりして、保護者や地域に学校運営協議会の具体やその働きによって教育活動の充実が図られていることを紹介していく。